議 会 の 概 要

（平成17年度）

中城村議会事務局

中城村の概況

1．沿革、歴史的事柄

（1）沿革

本村は、沖縄本島中部に位置し、琉球王朝末から王家一族（1）中城、沖縄市から1km の位置にあり、東は中城湾に面し、西は宜野湾市、南は西原町、北は北中城村に隣接し、東西約 7.1km、南北約7．2km、面積 24.57 km²（平成17年10月1日現在）、人口は7万数千の「中城湾港新港地区」、広域的な「沖縄自動車道」が通過する中部広域市町村圏の玄関口であり、沖縄県の中部の「ベッドタウン」として、住宅地開発が進み、人口増加が著しい地域となっている。地形は全体として、ゆるやかな平坦地、その南北両側を丘陵地が囲まれている地形である。海岸は全体として、ゆるやかな平坦地であり、南北両側の丘陵地は、海に近くなるにつれ、ゆるやかな傾斜を保ち平坦地となる。海岸は、砂浜と、ごつごつした岩が、交互に、連なっている。

（2）歴史的事柄

沖縄本島、南山（今の三間切）は紀元1429年、尚巴志、尚思紹、尚金福、尚宣威、尚泰久、尚徳、尚円、尚宣、尚真、尚清、尚元、尚永、尚久、尚甚、尚灯、尚亨、尚賢、尚秀、尚豊、尚益、尚敬、尚温、尚泰の25代で終焉を迎えたとされる。その後、琉球の統治のなかで、1611年の薩摩に、東方間、北谷、勝連、浦添、宜野湾、中城、南風原、玉城の6つを分割した。この9つの間切を、1673年に、第二尚世界王統治のもとで、1673年、1673年、1673年